



棚田は生産性が低い湧き水天日干し、生きものと共生した体に優しいコメ作りをしている。これ以上贅沢なコメは何処にもない。



四月七日、桜満開の千枚田で横浜ゴム新城工場の新規採用社員研修が行われた。この研修は今年が四年目であり、三十四名の新社員と副工場長、お世話になってい藤沢さん、係長を含め総勢四十七名が研修を兼ねたボランティア活動(ふれあい広場の環境整備)が行われた。昨年までは弁当持参であったが、稲藁を高額で買って頂いた、植樹会に招かれたり良い雰囲気、受け入れ方の好意をお見せしようとなつた。娘が地域特産(千枚田米)の五平餅と獣害対策で捕獲したイノシシ汁を振るまつた。最高、二本の五平餅とシシ汁杯を平らげた強者もいた。



交流会に駆けつけた穂積市長は新が誇る大会社に新社会人として就職した皆さんに歓迎と期待の挨拶を、また、新社員と膝を交えて五平餅とシシ汁に舌づつみ、打ち解けた時間を過ごされた。昼食後は班列を作り、新社員各自が出身地、趣味、抱負などの自己紹介を行った。抱負の中で一番多かったのが「給料をためて車を買いたい」、その他に「どの部署に配属されても一生懸命に働きお金を貯める」「ゴールデンウイークには初給料で(国)長崎へ里帰りしたい」「最近、彼女に振られ、寂しい。早く合コンで相手を探したい」「テレビがないから初給料でテレビを買う」「僕は、一生懸命働き先輩や係長に認められ、将来は横浜ゴムの社長になり故郷に錦を飾る」等々



自己紹介は新入社員にとどまらず、先輩上司にも、なぜ、今でも会社に居るのか?その理由などを主体にと紹介を促した。先輩上司の一例の回答は、給料もよく、生活の安定を表していた。「入社して二、三日で嫌になり、三年、五年たつても嫌な時もあった。今考えると辞めなくて良かった。家も建てたし、車も乗り換えて来れた」「タイヤは消耗品だ、この会社には不景気はない」「私も女房も娘も何故か、この会社に勤めていて」「同期入社で転職した者には不景風をものに受け、大変だ。転職はその都度、一年生だ。我慢が肝心」。等々会社の安定を強調した紹介が目立った。地元は「棚田の娘」の丸地光世が、保存会は高橋顧問が代表して挨拶を行った。準備や何かやお助け隊、棚田の娘、保存会の皆さん、本当にご苦労様でした。

## 棚田学会

三月二十日、棚田学会中島会長、棚田ネットワーク高野事務局長のお二人が岐阜県の坂折棚田訪問の途中、千枚田を訪れ保存会メンバーと交流を図った。



## 国の重要文化的景観

国の重要文化的景観に三方所の棚田が選定された。

### ① 姨捨の棚田―長野県千曲市

名勝「姨捨(田毎の月)」は、棚田として我が国で初めて名勝として文化財に平成十一年に指定された。平成二十二年二月、「姨捨の棚田」が国の重要文化的景観の選定を受けた。この選定を契機に、耕作者はじめ、地域住民・市民、行政、さらに広範なみなさんのご支援・ご協力を得て、棚田での農業の継続ができ

る仕組みを早急に構築していくことが「姨捨の棚田」での大きな課題である。(市教育委員会 矢島宏雄氏)

### ② 堅原の棚田―徳島県上勝町

平成二十一年十二月、文化審議会による答申により「堅原の棚田」は国の新たな重要文化的景観として認められた。棚田を生活の場としてきた人々にとつて「あたりまえ」だったことに価値が見いだされ、外部から評価されたことが、ふるさとに対して新たな自身と誇りにつながるのではないかと期待している。この選定によって、高齢化や後継者不足などが直接解決されることは難しいが、棚田を思い、守ってきた幾世代もの人々の努力に対する感謝状であるとともに、守り続けていく世代への灯明となつて欲しいと願っている。(町教育委員会 新開晴美氏)

### ③ 平戸島の棚田と生月島―長崎県平戸市

本地域の文化的景観は、島という地勢を生かしながら農地や居住地を形成してきた農漁村集落としてのあり方を示すとともに、各時代において引き継がれ、発展してきた様々なタイプの信仰が融合しつつ独自の文化的伝統を生み出し、この伝統に基づく社会的・空間的な特性を示す重要な文化的景観として評価を受けた。

棚田を担う各地域の保存会などは行政を交え「国の重要文化的景観」指定に向けて組織づくりや調査情報収集に邁進している。当地の棚田も文化的景観指定の要素は充分に満たされているものと、「四谷の千枚田だより」五一号で提言したが、反応もなく寂しい限りである。

## お花見会

三月二十八日、連谷交流館で恒例のお花見会が開かれ、参加者はお茶会や句会を楽しんだ。



## 啓蒙看板

連谷小学校児童は、千枚田の入りの沢沿いにゴミを捨てないように啓蒙看板を立てました。児童の「ゴミのない千枚田」を裏切らないよう、心がけましょう



## 連谷お助け隊会合

三月二十七日、連谷会館において平成二十一年度事業報告・会計報告を行い、平成二十二年事業計画は①「千枚田を灯そう」事業の実施②あいち森と緑づくり事業環境整備活動の実施(保存会と協働)③保存会主催事業への協力(横浜ゴム新入社員研修、アストラゼネカ社ボランティア活動など)④その他・生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)に係わる協力事業などについて決議された。

行 平成二十二年四月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二